



HAGIWARA^{TIMES}

道道名寄遠別線 特定交付金(宇遠別トンネル)工事 / (仮称)幼保連携型認定こども園桑園幼稚園増改築工事



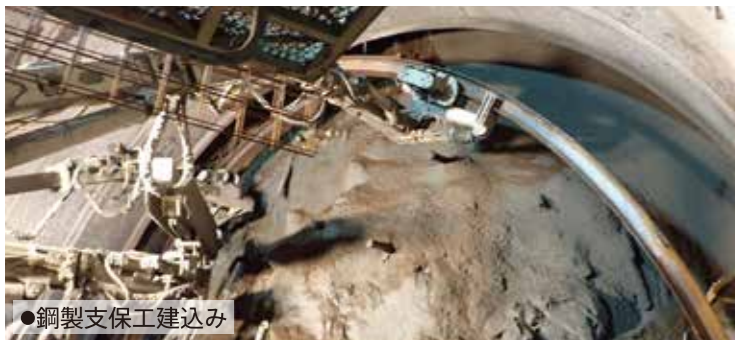
Vol. 72
2023.

5



●発破掘削 ドリルジャンボによる削孔

道道名寄遠別線 特定交付金(宇遠別トンネル)工事



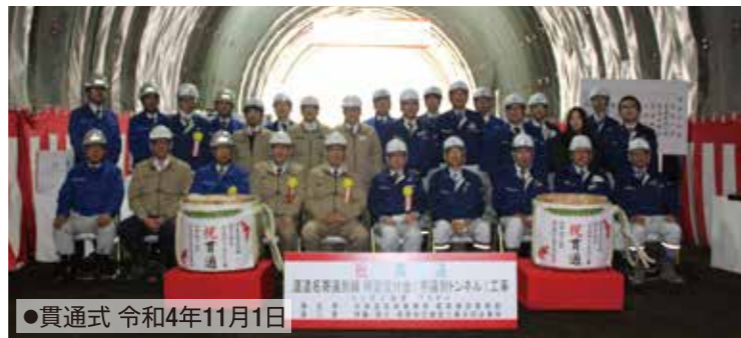
●鋼製支保工建込み



●吹付けコンクリート



●明かり部 トンネルずり盛土区間



●貫通式 令和4年11月1日

- 工事名 : 道道名寄遠別線 特定交付金(宇遠別トンネル)工事
- 発注者 : 北海道留萌振興局留萌建設管理部
- 施工業者 : 伊藤・堀口・萩原特定建設工事共同企業体

- 施工場所 : 天塩郡遠別町字正修
- 進捗率 : 69.1% (令和5年3月末)
- 施工期間 : 令和3年10月22日～令和5年12月25日

土木

一般道道名寄遠別線は名寄から幌加内を経由し、遠別町へ至る延長約90kmの路線で、このうち7.8kmが交通不能区間です。当工事はこの交通不能区間の解消を目的としたトンネル工事です。工事箇所は遠別市街地から約45km離れた山奥で、その道中に野生動物(クマ、シカ等)が頻りに出現するため、毎日の通勤や資材搬入の際に接触しないかヒヤヒヤしています。また、現場付近は道内でもトップクラスの豪雪地帯で、現場までの約45kmのうち約20kmは当工事で除雪しなければならないため日々の道路維持に大変苦労しています。令和4年3月7日からトンネル掘削を開始し、10月19日に無事に貫通しました。メイン工種のトンネル掘削は完了しましたが、まだまだ残工事があるので、もう一度引き締め無事故無災害で竣工を迎えられるように職員一同安全管理に努めます。

現場代理人・監理技術者: 佐藤 隆紀(伊藤組土建・前列右)
 主任技術者: 原田 辰也(堀口組・前列中央)、山村 拓未(萩原建設工業・後列右)
 担当技術者: 岡本 憲助(伊藤組土建・前列左)、馬場 和幸(伊藤組土建・後列右から2番目)
 武川 慎吾(伊藤組土建・後列左から2番目)、勝山 禎紀(萩原建設工業・後列左)



●施設外観

(仮称)幼保連携型認定こども園桑園幼稚園増改築工事



●ホール・図書コーナー



●2歳・3歳児室



●遊戯室



●礼拝堂

- 工事名 : (仮称)幼保連携型認定こども園桑園幼稚園増改築工事
- 発注者 : 学校法人桑園幼稚園 理事長 秋本 英彦
- 施工業者 : 萩原建設工業株式会社

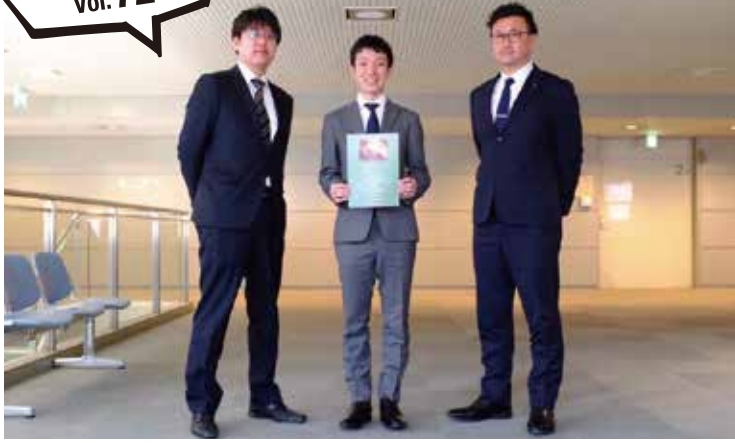
- 施工場所 : 札幌市中央区北7条西13丁目2番地
- 設計・監理 : 株式会社一寸房
- 施工期間 : 令和4年6月10日～令和5年3月15日

歴史ある桑園幼稚園の解体工事からはじまり、幼保連携型認定こども園の改築工事を担当させていただきました。教会側の外装はレンガ調タイルを使用することで旧教会の雰囲気を残し、幼稚園側は温かみがある色を採用し、さまざまなデザインを実現できるジョリパットを使用しております。屋外階段付近の躯体には直径5.4m程の大きさの壁開口を設けており、他ではなかなかご覧いただけない、当建物外観の見所かと思えます。内装は子どもが好きな丸みのある意匠を採用し、子どもたちが安全に楽しく保育生活が送れるよう配慮いたしました。また、礼拝堂正面のステンドグラスは旧園舎に取付られていた物を、解体工事時に取り外し、新園舎に取り付け、旧園舎の歴史や思いを引き継ぎました。

工事全体を通して、施主様をはじめ設計事務所様の協力もあり、楽しく現場を進める事ができ感謝いたします。桑園幼稚園様のさらなるご活躍と引き続き旧園舎での生活同様、園児の皆様が楽しく過ごせることをお祈り申し上げます。 現場代理人:小笠原 悠真 / 現場担当者: 椎名 市右衛門平太郎・中平 大地



建築



このたび、国土交通省 北海道開発局、北海道建青会主催の「建設業の魅力発信!動画コンテスト」において、当社の有志者が制作した動画作品が入賞しました。

このコンテストは、地域の産業・暮らしや生産空間の維持等に不可欠なインフラ整備のみならず、激甚化・頻発化する災害への対応等を担う建設業の魅力を広く知っていただき、より一層関心を深めてもらうことを目的に開催されました。当社は、担い手の確保が喫緊の課題となっている建設業において、働き方改革や現場環境改善の様子など業界の取り組みや魅力を、就職活動を行う高校生や大学生へ向けて発信するという当コンテストの開催趣旨に賛同し、有志者数名にて動画を制作および提出しました。初開催となる今回は、応募総数27作品の中から、北海道開発局長賞、北海道建青会長賞が各1作品、入賞9作品が選ばれました。表彰式は、3月20日(月)、札幌第1合同庁舎 2階講堂にて執り行われ、制作に関わった有志者のうち3名が出席しました。

以下、制作チームからのコメントです。

動画は横長という固定概念にとらわれず、敢えて縦動画、それも視聴者がスマートフォンで見ることを前提に制作しました。建設工事現場で施工管理技術者として働くひとりの女性が、自身のスマートフォンで建設業の魅力を再確認するストーリー仕立てとなっており、スマホでスマホを見るという少しトリッキーなところが見所です。

今回、数ある応募作品の中から選んでいただけたことをスタッフ一同大変嬉しく感じております。何より楽しみながら制作にあたることができました。約1分程度の動画ですが、最初と最後の映像が繋がる演出に注目してご視聴頂けますと幸いです。今後、応募作品の動画が広く若者に届き、建設業の魅力を感じてもらえることを願っております。

📷 今月の表紙

撮影:萩原建設工業 営業部・仁藤 正憲

端午の節句の5月号の表紙はキタキツネの子供です。ちびっこキツネたちが巣穴から出てきた! と思ったらどこからともなくお母さんキツネがやってきました。おなかをすかせて待っている子ぎつねの為に、お母さんはエサ運びです。愛情いっぱい我が子を可愛がる姿は見るだけで癒されます。でも、夏を過ぎると子離れの儀式が始まります。非情にも本気で噛みつき、自分のテリトリーから追い出します。悲しく辛い儀式ですが種の存続に必要な自然の摂理なんですよね。私はかわいい子供たちとずっと一緒にいたいなあ〜。



デジタルサイネージ
ショールーム5月下旬
OPEN!

萩原物産株式会社
帯広市東7条南8丁目2番地 TEL.0155-21-2200

